望楼のある廻船問屋

# 高岡市
# 伏木北前船資料館

高岡市指定文化財（旧秋元家住宅）

望楼

## 伏木と秋元家の歴史

伏木は、小矢部川の河口に位置し、遠く古代から知られた日本海沿岸屈指の良港です。18世紀に入ると、能登屋（藤井家）や鶴屋（堀田家）、西海屋（堀家）など、自ら渡海船を所有し交易業を営む有力な船問屋が台頭してきました。渡海船は、大阪から瀬戸内海を通り、下関を廻って日本海に入り、北は松前（北海道）まで、各港で買積（かいづみ）した商品を売りさばきました。この渡海船を大阪や瀬戸内では北前船（きたまえぶね）と呼び、この辺りでは買船（ばいせん）と呼んでいました。明治に入って和船から汽船の時代を迎えると、能登屋4代目藤井能三は灯台や測候所を設置するなど、近代伏木港の礎を築きました。

秋元家は、文化年間（1804～1818）以前より現在地で海運を家業とした旧家です。屋号は本江屋（ほんごう）で、当初は船頭や水主（かこ）などの宿泊施設（小宿）でしたが、時代が下るにつれて長生丸や幸徳丸といった船を持つ廻船問屋として繁栄しました。

## 高岡市指定文化財 旧秋元家住宅

主屋は、明治20年（1887）の大火で焼失し、その後、元通りに建て直されたと伝えられています。土蔵は、江戸時代後期まで建築年代がさかのぼるものと推定されます。

主屋は、切妻造り、一部2階建、妻入りで、梁（はり）や束、黒壁の構成が美しいアズマダチの形式を採り入れています。内部は、オモテザシキやオクザシキ、チャシツなど整った室内構成を持ち、数寄屋風の繊細な造りとなっています。

土蔵は2階建で、調度蔵と衣装蔵の屋根の上には、港への船の出入りを見張るための望楼が設けられています。秋元家に伝わる古文書には、安政4年（1857）に加賀藩の重役一行が海岸視察に訪れ、当家で休息した折、蔵前2階へ上って遠眼鏡で港を眺めたということが記されています。現在市内で望楼が残されているのは、この建物だけです。

旧秋元家住宅は、民家としては建築年代も古く、かつて北前船で繁栄した伏木の廻船問屋の数少ない遺構として貴重なものであると評価され、平成10年7月1日に高岡市指定文化財に指定されました。

## 展示の内容

伏木北前船資料館では、伏木の廻船問屋と交易、伏木みなとの変遷など、北前船の通商で栄えた伏木と周辺の村々の歴史を紹介しています。北前船の航海用具や船主の生活用具、全国各地の引札などを展示しています。晴れた日には市内唯一の遺構である望楼に登って海が望めます。

■船　幟（のぼり）

港に近づくと遠くからでも分かるように船尾に掲げました。

■船銘板

船の名前を書いた船銘板を船尾につけました。

■船絵馬

航海の安全を祈願し、また、無事な航海に感謝して港々の神社や寺に奉納されました。

■船鑑札

船主の所属する藩の役人が発行した船籍証明書です。登録番号や船の形式、石数、船主名、定繋港名などが記されています。

■和磁石

中国から伝わり、日本人が改良。方位は子・丑・寅と右廻りにする本針（ほんばり）と、左廻りにした逆針（さかばり）があります。逆針は子(北)を船首に向けて据えると、磁石の方向と船の進路が一緒になり便利です。

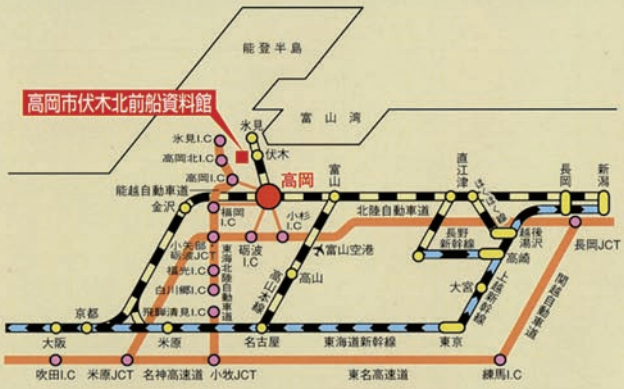
■引　札（ひきふだ）

現代風にいえば商店の広告チラシのことで、江戸時代中ごろから大正にかけてつくられました。恵比須や宝船など縁起の良いものや暦が刷り込まれています。

■船箪笥（ふなだんす）　懸硯（けんすずり）

船箪笥は、船中で船頭や知工（ちく）（事務長）が大切な書類やお金、衣類を入れていたもので、懸硯（けんすずり）、帳箱（ちょうばこ）、半櫃（はんびつ）の3種類に大別されます。懸硯と帳箱は金庫として、半櫃は衣装櫃（いしょうびつ）として使っていました。外側は欅（けやき）、内部は桐を使い、海難に備えて海へ投げ込んでも水が入らないような造りとなっています。

## 交通機関のご案内




- バ　ス　高岡駅より伏木経由氷見行き、古府循環、伏木循環いずれも伏木駅前下車・徒歩10分
- ＪＲ氷見線　伏木駅下車・徒歩10分
- 能越自動車道　高岡北ＩＣより車で15分
- 北陸自動車道　小杉ＩＣ・砺波ＩＣより車で40分

## 観覧のご案内

**開館時間**　午前9時～午後4時

**休 館 日**　年末年始（12／29～1／4）

**観 覧 料**　一　　般　210円（団体20人以上 160円）

小中学生　無　料

**連絡先**

〒933-0112　富山県高岡市伏木古国府7-49
高岡市伏木北前船資料館　☎0766-44-3999

〒933-0112　富山県高岡市伏木古国府1-20
伏木観光推進センター　☎0766-44-1199

〒933-8601　富山県高岡市広小路7-50
高岡市教育委員会文化財課　☎0766-20-1453